



# 善正寺だより

〒:512-0902  
 三重県四日市市  
 小杉町1014  
 浄土真宗  
 本願寺派  
 善正寺  
 ☎:059-331-1670  
 fax:059-332-0733

## 掲示板法話

### 仏法は不要不急か？

### 阿弥陀さまは不眠不休です

(大谷派高山別院掲示板より)

コロナ禍の中に、二年目の春を迎えます。ワクチン接種の予定などが聞かれるようになり、そろそろ元の日常を取り戻せる時期がくるかもしれないという期待がふくらみます。

だが、変異株への感染が徐々に増加している傾向は新たな心配の種です。近く日本に供給されるワクチンが変異ウイルスにも効果があるのか、等々心配すればキリがないですね。ともかく、「コロナと共に」の長期化はどうも避けられそうにありません。

我々の寺では三密を避け、感染対策を慎重にとりながら、法要、行事等を昨年からお勤めさせて来ましたが、法座もご門徒さんの法事も世間一般に自粛傾向にあるのは否めません。

そこで、標語の「仏法は不要不急だろうか？」という問いに対して、あなたはどう答えられますか。是非一人ひとりの方々に直接お聞きしたいことですが、おおよそ、次のようなタイプの答えがあるようです。

①今は感染を避けて生きるのに精



いっばいで、大変だ。仏法のことなど考えたことがない！

②仏法が不要だとは思わないが、そのうちコロナが収まってから考えればよい。今はコロナ対策で大変だ。

③死んだら仏さまがお浄土に迎えて頂く(?)というから、特に仏法をいま、改めて必要と感じない。

.....

コロナウイルスに感染した人たちは、「感染対策をしっかりとっていたつもりだった。自分がどうして感染したのか今も分からない」と手記で書いています。また、大事な身内の人をコロナ感染で亡くした人は、「見舞いも、最期の看取りもできなかった。葬儀もきちんとできず突然の別れに、今も悔いが残ります」とやりきれない心情を綴っておられます。

だが、熱心にお聴聞に励んでおられる法友の方は「今まで当たり前に暮らしていた日常が何と有難いことかと改めて教えられました。今はご法話のCDを何度も何度も繰り返し聞いて、

仏さまが今ここ(私)に来て下さっているのだと、お念仏申すばかりです」と今救いの中にある日々をかげがえなきものと味わい、かみしめていらつしやいます。仏法に遇えば、平凡な日常が「我いま、幸いに救いの中にある」と輝いて下さるのです。

まさに、標語の後半にある通り、「阿弥陀さまは不眠不休で我がために、『救い取って離さないぞ』と南無阿弥陀仏のお呼び声となって喚んで下さっている」のでした。コロナだけでなく、この世は死の縁無量です。だから、日々出会う縁深き間柄(家族、隣人、知人等)は皆仏さまに成るべき仲間だと敬いあい、励まし合ってお浄土に至る人生を精一杯、生き切つて参りたいと思えばかりであります。

## ☆行事ご案内☆

### ◇4月の門信徒会例会

4月18日(日)朝8時半 ①3年度総会の準備、  
 ②門信徒会長(行事長)、会計選出など。

◇春の永代経 講師：森直道師(滋賀・初)

3月20(土)、21(日)午後1時半

### ◇三全仏婦総会

3月20日夜7時、善正寺にて

◇絵手紙教室 4月13日(第2火)10時  
 60回目、庫裏食堂、小杉郵便局に展示

◇歌声喫茶 4月15日(第3木)午後1時本堂  
 20回目プロジェクター使用。ギターマンドリン伴奏

◇キッズサンガ 4月3日(土)午後4時  
 夕方5時の鐘撞きは年中無休、

善正寺ホームページ「三重善正寺」で検索  
 過去1年分の寺報閲覧可、毎日更新のブログ大好評  
 『住職と坊守のつれづれ日記』開設12年8カ月で累計  
 34万2千訪問。お悩み相談可、メールOK、即返信

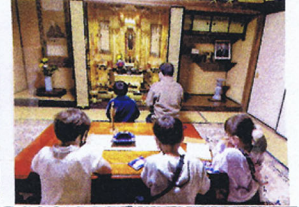
◇一縁会テレホン法話三重組5か寺の僧侶らが担当  
 TEL059-354-1454お電話下さい

新納骨堂後継者の無い方、墓でお困りの方相談下さい  
 法事場所でお困りの方寺にご相談下さい。本堂使用可

## ☆ 写真アラカルト ☆



2021.03.01 17:04



# 坊守の親の鏡

昔から「子は親の鏡」と言われます。

またしつけの悪い子をみると「親の顔が見てみたい」とも言います。

しかしイマドキの親は、子育ての責任を自分以外の者に転嫁しがちです。

ところで『子供が育つ魔法の言葉』(ドロシー・ロー・ノルト著)から子育ての大切な言葉を簡潔に紹介します。

「けなされて育つと人をけなす子になる。トゲトゲした家庭で育つと乱暴な子になる。不安な気持ちで育つと不安な子になる。可哀相な子だと言つて育つと、子供は惨めな気持ちになる。子供を馬鹿にすると、引つ込み思案な子になる。親が他人を羨むようになりいと、子供も人を羨むようになる。叱り付けてばかりいると、子供は自分を悪い子だと思ふ。励ましてあげれば、子供は自信を持つ。広い心で接すれば、キレル子にはならない。誉めてあげれば、明るい子に育つ。愛してあげれば、人を愛する子になる。認めてあげれば、子供は自分が好きになる。見つめてあげれば、子供は頑張り屋になる。分かち合うことを教えれば、思いやりのある子になる。親が正直であれば、正直な子になる。子供に公平であれば、正義感のある子に育つ。優しく思いやりを持って育てれば、優しい子になる。守ってあげれば、強い子に育つ。和氣藹々とした家庭で育てば、この世はいそだと思ふようになる。」



以上、子供の人格形成は、親の日常生活と大きく関わってきます。乳幼児期から我が子の不安や寂しさに向き合う暇がない若い親たちにとっては、謙虚に耳を傾けるべき言葉です。

いや若い親だけの責任ではありません。祖父母世代にも反省点があります。お力ネ儲けと自分の楽しみ優先の生き方をして、我が子に大事な人間教育をしなかつたツケが回ってきました。厳しい競争社会の片隅で、子供の悲鳴があちこちから聞こえます。「子は宝、地域の宝」として皆で協力して住みよい子育て環境を作りましょう。微力ながら私達もお手伝いをしたいと思えます。

## 俳壇

横顔で道いっぱいに椿落つ 釋妙水

吸い込まれ氷の板に子らの声 下萌えや木蘭の薔ぎつしりと 綿棒のお顔白々紙雛いひな 釋染邦

切り株の光る新芽に春の風 日を仰ぎ地上の星や犬ふぐり 仏参の幼き眼光る春 釋清風

シャツ脱ぎて下校の児らよ山笑ふ よく見れば雛に似て来るすまし顔 風光るレンズにぼくの笑顔あり釋秀龍

まだ小さき梅伸びゆくが待ちきれぬ 春の日にひびくたいこよ幼な児よ

## 坊守の子育て日記76

長女の幼稚園最後のお遊戯会が二月中旬に四日市文化会館であり、コロナ禍のため三部構成で行われました。年長さんは第三部に歌・器楽合奏と日舞の発表をしました。器楽ではピアノとグロッケン(鉄琴)を演奏し、冬休み前からの練習の成果を見せてくれました。

年長になると才能教室に日舞が加わり、秋の文化祭とお遊戯会で可愛い舞を見せてくれます。お遊戯会では女の子は着物、男の子は袴を着て舞うのでまさに晴れ舞台です。長女は同級生のお姉ちゃんに着物を借り、裾上げと肩上げをし、私も着付けの勉強をしながらなんとか当日形にできました。

「さくら花笠」を舞った女の子たちは桜色の扇子を持ち、斜め四五度に頭を傾け、日舞らしい所作で優雅に踊ってくれました。さすが年長さんです。会場では日舞の先生が長男を見てけて名前を呼んで下さいました。三年前に卒園したにも拘わらず、当時からお喋りだったので印象に残ったのかもしれません。嬉しい驚きでした。

6年間通った幼稚園とも、もうすぐお別れです。楽しい思い出を作った下さった先生、ありがとうございました。



## お悔み申し上げます

★石田とし子様(92歳、2月18日往生、みゆきヶ丘) 合掌

## カンパありがとうございます

服部浩明様、水谷勝子様、山中登美子様、他匿名の二名様より感謝!

## ホットコース

※「善正寺版プレバト俳句大会春光戦」が先日行われました。参加者は家族含めて7名、永世名人は釈秀龍こと小3の孫、小学校のクラス内でも俳句クラブを作り、たちまち20名のお友達が賛同。今や秘かな俳句ブームです。

## 令和3年・善正寺…主要予定

- 5月16日(日) 午前・門信徒会総会
- 8月14日(土) 朝8時半・孟蘭盆会
- 8月21(土)・22日(日) 永代経
- 9月19日(日) 小杉町仏教会追悼法要
- 11月2(火)・3日(祝)・報恩講
- 11月23日(祝) 秋勧進
- 12月4日(土) 午前・お内仏報恩講

## ★ 編集子より ★

「善正寺だより」328号をお届けします。◇春の到来は待ち遠しい筈だが、コロナのために心穏やかでない日々が続く。◇ワクチンは感染対策の特効薬と言ったが、変異株の感染増の前「？」の懸念がつきまとう。◇だが、仏法をこの身の上に聴き聞けば我らは皆等しく生まれ難き人間に生まれ、遇い難き仏法に遇う身に育てられてきたことを知らされる。仏祖に恥じることなき道を歩みたい。合掌。

春は出会いと別れの季節です。登校班の6年生も卒業式。

ヨシの子もウチの子同様に挨拶を交わし見送っていました。もう  
会えないと思うと寂しい気持ちになります。代わりに4月からは  
ウチの孫娘が新一年生に入学するので、あと6年間の見送  
りは続きます。今年こそはオリンピックが開催されるのか心配  
していますが、自然界ではそんなことはお構いなしに桜が開  
花の準備をしています。今年一緒に桜を愛でる人と来  
年も一緒に見られる保証はありません。人の出会いには  
「一期一会」がつきものです。「人は出会いによって学び別れに  
よって成長する」と言われます。一度きりの出会いもあれば  
一生つき合う出会いもあります。また「出会いには偶然である  
が別れは必然である」とも聞きます。限られた人生で、人  
の出会いはお互いが心を通い合わす努力をしなければ、  
自然消滅します。その点お寺参りで出会った「法友」とは  
長くお付き合いできるといえるような気がします。何故ならば阿  
弥陀様が仲人で、誰とでも平等に心を割って話し合え  
るからです。この不思議なご縁をいつまでも大事に育  
てたいと思います。この春卒業して入学や就職で遠  
く巣立っていく若者達に贈る言葉があります。「故郷は  
あなたの幸せを願い続けている家族や仲間、母親(仏様)  
がいることを忘れずに大きく羽ばたいて下さい」。コロナ  
で世界が一変しようとも、お互いに出会いと別れを繰り返  
しなから逞しく生きていきましょう。永代経(3/20・21)を  
お勤めします。どうかお参り下さいませ。

合掌

令和三年四月

善正寺坊守拜